

第1回『スポーツモールAKITA』を核とした街づくり構想協議会議事録

日時：平成30年2月20日（火） 午後5時30分～

場所：秋田中央市民サービスセンター センター3階 洋室4

出席者：桂田委員、岩瀬委員、水野委員、山下委員、小畑委員、新出委員、小林委員、島田委員
筒井委員、渡邊委員、齋藤委員

オブザーバー：スポーツ庁 津々木様、日本経済研究所 小原様

事務局：ブラウブリッツ秋田 外山、日本総合研究所 東様、日本IBM 岡田様、金子様

○会議次第

- 1 開会
- 2 主催者挨拶
- 3 委員紹介
- 4 委員長選出
- 5 委員長挨拶
- 6 議事
 - (1) スタジアム・アリーナ改革推進事業②先進事例形成支援について
スポーツ庁 参事官（民間スポーツ担当）付 産業連携係 係長 津々木晶子様より
 - (2) 「スタジアム整備のあり方検討委員会」提言内容について
秋田県観光文化スポーツ部 スポーツ振興課 課長 飯坂尚登様より
 - (3) 『スポーツモールAKITA』を核とした街づくり構想について 事務局 外山より
 - (4) 国内外のスタジアム整備の事例について
※時間の都合により取り止め
- 7 閉会

○内容

開会

事務局 ブラウブリッツ秋田 外山

主催者挨拶 株式会社ブラウブリッツ秋田 代表取締役社長 岩瀬浩介

本日はお忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。さて昨年11月に国のスタジアム・アリーナ改革推進事業②先進事例形成支援についてスポーツ庁から採択をいただき、2月5日に契約を締結致しました。その間県ではスタジアム整備に向けてのあり方検討委員会が設置され、また秋田経済同友会様からは可動式屋根付きスタジアムの提言が提出されました。また、秋田大学様からも大学の敷地内にスタジアムを建設できないか、という発表もされました。いわゆる産学官による様々なご提案をいただいているわけではございますが、そして何より2018シーズン明治安田生命J3リーグにおいてブラウブリッツ秋田が優勝を遂げることが出来ました。その優勝が議論を活発化させ、県内で様々な意見が出ております。県議会ではやはり慎重な意見がございます。今日も新聞に投書が掲載されてましたが一般の方からも慎重な意見が出ております。多額の県費が注がれるわけなので、あつてしかるべきだと思います。ただ、県民の皆様はこの協議会、そして構想を通じて発信して行きたいのは、ブラウブリッツ秋田のためだけではない、秋田の未来・将来のため、子供達の未

来のため皆様に、そして秋田の街づくりの核となるスタジアム整備構想が発信できるのかなと思う。民間の知恵を出していただいて発信していければと思います。国では今それこそスタジアム・アリーナ改革推進と言った部分で力を入れております。これまでの国体を機に整備されていた、体育施設からやはりもっともっとスポーツといったものが産業化できるのではないかと。そして地方創生において起爆剤になりうる、まだまだ成長する産業の一つだという事を国自体が力を入れている次第でございます。そう言った意味で申し上げますと、いまの議論を時代が背中を押してくれていると思います。また秋田ではサッカーだけでなく、本日までご出席いただいているノーザンハピネッツ水野様、ノーザンブレッツ新出様、にもご出席いただいておりますが、サッカー、バスケット、ラグビー、北都銀行バドミントンなどたくさんさんのスポーツがございます。そういった中で「スポーツモールAKITA」でスポーツを集約してなんとかそこから地域創生・地域の活性化を図ってまいりたいと思います。先日、ちょうど私の地元のカシマスタジアムに勉強に行っていました。そこでみた風景というのは、当時は鹿島アントラーズのためのスタジアムだったのかもしれませんが。ただ、今ある姿は、本当にまちづくりをしようとしている。そして、鹿島にはなかった新たな産業を生み出している。本当にいまでは街の活性化に寄与している。もしこれがなければどうなっていたのだろうと思う次第でした。ですからこの場でもっともっと先進的な事例を皆様と共に作れたらなと思います。ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴出来ればと思います。本日は誠にありがとうございます。どうぞ、宜しくお願い致します。

岩瀬社長ありがとうございました。

事務局より

先ほど冒頭でお伝え漏れがございました。本日のこの協議会は民間が開催する協議会という事もございますので、弊社ブラウブリッツ秋田のYouTubeチャンネルにてLiveにて放送させて頂いております。これは、沢山の方々にスタジアム議論がどのように行われているのかという事を知って頂くために試みた次第でございますので、どうぞ、ご了承の程、お願い申し上げます。

委員紹介

第1回目の協議会開催にあたり、委員のご紹介を自己紹介にておこないません。

委員長選出について

委員長につきましては設置運営要綱内第2条4項にて「委員の互選による」と定めている事から、事務局からの推薦により桂田委員が選出された。

委員長挨拶

あたためましてご選任いただきましてありがとうございました。議長を務めさせていただきます、桂田と申します。皆様のご挨拶で皆様のそれぞれのご専任の見知また、今までご経験された知見とかバックボーンに基づく忌憚のないご意見をいただけると勝手に認識させて

いただきました。ぜひ、この1回2時間、3回という短い時間の中で暑い議論の会になるように少しでも司会進行議事進行できればと思います。

副委員長選任

設置運営要綱の規定により、副委員長は委員長が委員の中から指名することとなっておりますので、この会の主催者でありスタジアムのご構想でも活発なご意見を出していただきたいので、副委員長は岩瀬委員を指名します。岩瀬委員宜しくお願い致します。

議事

本日最初という事で、皆様にこの協議会のバックボーンをご紹介させて頂きたく、本日オブザーバーでご参加いただいておりますスポーツ庁の津々木様よりご説明頂きたいと思ます。

津々木委員

スポーツ庁の津々木と申します。このような場でお話しさせて頂くのはすごく貴重な事だと思いますが、駆け足で10分ほどお話しさせて頂きます。スタジアム・アリーナ改革はスポーツ庁で事業を行っておりますが、関係各所とかなり協力して行っています。その辺りも説明させて頂きます。

日本再興戦略2016は政府の成長戦略で、スポーツの成長産業化が初めて盛り込まれました。その中でスタジアム・アリーナ改革、スポーツコンテンツホルダーの経営力強化、新ビジネス創出の推進、スポーツ分野の産業競争力強化、という3つの柱になっている。その1丁目1番地にスタジアム・アリーナ改革が位置付けられている。経済投資戦略2017においても具体的にKPIとしてスタジアム・アリーナが位置付けられている。

(KPI)

- ・全国のスタジアムアリーナについて、多様な世代が集う交流拠点として、2025年までに新たに20拠点を実現する。
- ・スポーツ市場規模を2020年までに10兆円、2025年までに15兆円に拡大することを目指す。
- ・成人の週1回以上のスポーツ実施率を、現状の40.4%から、2021年までに65%に向上することを目指す。

スタジアム・アリーナの動きが始まった下地になるのがスポーツ未来開拓会議です。こちらは、スポーツ庁が2015年10月に発足、発足後に経産省とともに2020年を契機としてその後のスポーツ産業の活性化の議論を開始しました。その中間報告として出されたものがこちらです。その中で一番の課題がスタジアム・アリーナであり、そこに着手しようということで動いております。具体的にスタジアム・アリーナについては協議会を立ち上げております。その一番大きなものが「スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会」です。委員の中にはスポーツ庁だけでなく、経産省・国交相・観光庁などの関係省庁、Jリーグ・Bリーグ・各チーム・地方自治体にも入ってもらい、スタジアム・アリーナのあり方について検討を行ってきた。それぞれの具体的な課題についてはワーキングを行っており、「スタジアム・アリー

ナガイドライン策定ワーキンググループ」と「スタジアム・アリーナ整備に係る資金調達手法・民間資金活用検討会」と言う2本の検討会を開催し、「スタジアム・アリーナガイドブック」を公表しました。現在については、さらにスタジアム・アリーナの運営管理に課題があるとし、検討会を開催しております。「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」の概要については、HPにも掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。こちらがどのように作られたかについて少し共有させていただきます。8ページに記載しているものがかなり肝となっております、

- スタジアム・アリーナ改革は、スポーツの成長産業化の大きな柱
- 改革指針は、スタジアム・アリーナ改革実現のための基本的な考え方を提示
- これまでのスポーツ施設に対する固定観念・前例主義等に関するマインドチェンジ
- スタジアム・アリーナを書くとした地域経済の持続的成長等、官民による交易の発想を目指す

具体的には郊外に閑散と立っているものではなく、もっと街中であつた方が良いとか、単機能でスポーツだけでなく、複合的に使用できるものが良いのでは無いか？という、政策投資銀行さんが提唱するスマートベニューのようなものであるべきでは無いか？という発想です。これらが大きな考え方です。

主な内容として、

「スタジアム・アリーナの定義」として

- 数千人から数万人の観客を収容する集客施設
- スポーツを観ることを主な目的とした施設
- ・・・

これは新しい考え方、今はほぼ無い。これを基に新しい施設を作っていかなければならないのでは無いかと考え検討している。そのあとに地域の効果であるとかコストセンターからプロフィットセンターへと言う考え方を出しているのですが、地方公共団体さん、スポーツチームさん、国の役割というのもこの改革指針の中で触れています。

- 地方公共団体さんにおかれましては「観るスポーツ」というものの価値を認識していただいて、最大限に活用する為の施設整備であるとか柔軟な運営を図る役割がある。
- スポーツチームにおいては行政のパートナーとして公共的な効果を自らきちんと説明していくものでは無いでしょうかと考えます。
- 国としては情報収集と展開、相談窓口の設置等により地方公共団体を支援していくということを書いております。

いずれにしても官民が一緒に連携してやっていくということがキーワードになっている。言葉でいうほど官民連携は簡単では無いが、本日の協議会のような場であつたりいろんなところで議論を交わしながら進めていければ良いと思います。

資金調達においてもかなりしつこいが官民連携の考え方。基本的な考え方として

- 今後のスタジアム・アリーナ整備にあたっては、総合的な官民プロジェクトとして捉えていくことが重要であると検討会の中で結論づけている。
- プロジェクトの上流段階で官民が対等な関係でパートナーシップを形成し、役割を明確化することがプロジェクトの成否にかかわる。
- 目指すべき姿が関係者間で合意されれば、その具体化の方策として事業方式が明確になり、資金調達手法が決定されていく。

というのが基本的な考え方となります。それぞれ進めていこうとなるとかなり色々議論が必要なので、後ほどご説明します。

ここまでがこれまでに国の方で議論してきた内容になります。では一体それが全国でどれくらいニーズがあるのかというと、全国のスタジアム・アリーナ新設・建替え構想は12月時点で55件程度あります。この中で「①スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会開催等」が本日もご参列いただいている日本経済研究所さんにお手伝いいただいているもので、「②先進事例形成支援」については7件ございます。平成30年度につきましても1.8億の予算を見込み、全体として4本の柱を用意しており、その中でスタジアム・アリーナ改革推進事業も盛り込んでおり事業をより一層進めて参りたいと思います。

国内外のスタジアム・アリーナの事例についても共有させていただきます。ご覧ください。収益拡大の取り組み事例としまして、は資料に記載致しておりますのでご参照ください。早足でしたけれども以上となります。

桂田委員長

津々木さんありがとうございました。スポーツ庁さんのおっしゃっていたキーワード「スタジアム・アリーナ改革」「マインドチェンジ」「気運情勢」「官民連携」を中心に議論を進めていく事になると思います。また、委員の皆様におかれましては、後ほどご意見を頂戴する場を作りますので、この件についてスポーツ庁さんや日本経済研究所さんに忌憚なく質問して下さい。

続きまして、秋田県の「スタジアム整備のあり方検討委員会」で取り纏められた報告書の件について、秋田県スポーツ振興課の飯坂委員よりお願いします。

飯坂委員より「スタジアム整備のあり方検討委員会」報告書内容について説明がされた。

加えて、検討委員会ではベーシックな提言をまとめたわけですが、より具体的な整備手法について、新たな議論の場を設けて議論していく事になります。

桂田委員長

飯坂委員ありがとうございました。秋田県様でまとめた報告書の内容のコンセプトの部分については改めてご一読いただきたいと思います。そして提言の「2.本件に適したオリジナリティあふれるスタジアム」の部分は私は重要だと考えます。やはり今回スポーツ庁様が応援されている部分も秋田ならではの事だと思います。また、最後の「6.新たな議論の場の立ち上げによる次のステージへ」の部分ですが、この協議会もそれに当たりますし、その先の部分について飯坂委員にお聞きしたいと思いますが良いでしょうか？

飯坂委員

まだ議会が終わっていないので、確定事項ではないのですが、新年度想定しているのは、ホームタウンである秋田県・秋田市・男鹿市・由利本荘市・にかほ市が負担金を出し合い、協議の場を設定するという事を検討している。また、民間活力導入しフラットな意見をより聞きたいという事もあり、事務局を秋田商工会議所に置き、より具体的に議論をしていく事になっている。この場の提言を受けまして新たな議論の場を設けるとしている。

桂田委員長

これから3回行われる会議ももちろん次のステージへのご参考にしていただけるものと認識しております。ありがとうございました。

事務局より「『スポーツモールAKITA』を核とした街づくり構想」について説明がされた。

桂田委員長

11ページのところでビジョンとコンセプトについて書かれている。検討委員会でのコンセプトが書かれている。スポーツモールAKITA構想においても決してサッカーだけのスタジアムではないとい趣旨を提案されています。また13ページに整備候補地・規模・機能についても提案されています。ここが議論のベースになるかと思います。最後に15ページについてはスケジュールについても提案されています。これについても実際に間に合うのか？という事についても議論をしていくものと思います。

主催者・委員としても構想への付け加えをして頂き、議論してもらいたい点についてなど付言いただきたいと思います。岩瀬委員お願いします。

岩瀬委員

今、スポーツの産業化という風にお話をしてきましたが、冷静に考えますと、秋田県の十年前のことを考えますと、ノーザンハピネッツやブラウブリッツやノーザンブレッツがまだ立ち上がってなかったわけです。今、ノーザンハピネッツさんにおいては6億規模、ブラウブリッツ秋田においては3.5億と合わせて10億規模の産業になっていることを皆様には誤認識頂きたいと思います。そのうち県外客やJリーグからの分配金も含まれておりますので、それ相当の経済効果も含めてすでにあると思います。逆にこの3チームが無かったことを考えると明るい話題が、ニュースが無いと、とても寂しい地域なのではないかと思えます。そういった意味で申し上げますと人口減・若者離れにも少なからず良い影響を与えられているのではないかなとも思っております。これをもっともっと拡大する事によってそれにストップをかけられる役割を担えるのではないかなとも思っております。選手・スタッフを含めるとすでに100名規模の雇用をここで生んでいるという事も言えるのではないかなとも思えます。ノーザンハピネッツさんにおいては10億円規模にしていこうとしており、ブラウブリッツ秋田もJ2の平均ですと12億円ですのでそこを目指すと、合わせて20億円を超えてきます。また、私の地元の鹿島アントラーズは周辺市町村を含めると28万人規模の人口の中で、すでに60億円規模、300名余りの雇用を創出していると考えますと、やはりその可能性は充分にあると言えます。また、本日は島田教授様にもご出席頂いておりますが、やはり健康寿命は軸におきたいと思っております。どうしても皆様の目が費用にいきがちですが、健康寿命を伸ばす事によって今、行政でかかっている医療費であったり、個人でかかっている医療費が軽減される事による効果や、スタジアムのプロフィットセンター化に向けて動いているが、どうしてもスタジアム単体でプラスにならないければお荷物のようなことが言われがちですが、冷静に考えると連結決算的な街全体の決算で考えればプラスになると思うので、そういった観点を持ち、とにかく秋田の街づくりの核となれる、そして新たな産業を生める様なスタジアムにしていきたいなと思います。最後にこれだけのスポーツコンテンツが秋田にはあります。せつかくこれだけあるにも関わらず活かさきれていない、これを活かさきって

なんぼだと思うので、これを集約して土日に「御所野のイオンに行こうか！」だけではなく、「明日バドミントンあるよね」とか「今度ラグビーあるよ」とか「夜ハピネッツの試合観に行こうよ」というような娯楽の選択肢を増やすことが街づくりの選択肢でもあると思うので、皆様からの忌憚りの無いご意見をいただければと思います。

桂田委員長

岩瀬委員ありがとうございました。特に強調されていたのはスタジアムでの単体収支ではなく、100人単位での雇用を生み出している事、秋田の明るい話題として、秋田ノーザンハピネッツのバスケットと共に、秋田の新しい明るい話題と新しい産業を作っていくこと。是非、街の効果として総合的なところで大きいプラスを作り出そうというコメントをいただきました。

今日の委員の皆様には、秋田のそれぞれ色々な、多種多様なバックボーン、民もあり官もあり、経済団体、大学の先生（有識者）、そしてスポーツ庁（中央の意見）様にもお越しいただいた。この場を大切に議論していきたいと思います。

次の議事の事例の共有に入る前に、委員の皆様よりコメントをいただきたいと思います。この協議会は3回しか無い。次回には中間報告まで進めなければならない。ですから「スポーツモールAKITA」はこういうものであるのだ、というご意見を頂きたいと思います。皆様のバックボーンに基づく「スポーツモールAKITA」にこのような機能とかコンセプトがあった方が良いのではないだろうか？や、主催者である岩瀬委員や、スポーツ庁津々木さんに対しての質問等もいただけたらと思います。また、このようなポイントを調査をして欲しいとか入れて欲しいという2点についてコメント頂けますとありがたいです。

水野委員

私は立場的にプロバスケットボールを運営しているので、スタジアムでありまたアリーナという観点で考えがちになるのですが、私は今日の資料の中で、スポーツ庁の資料の中の8ページに書かれているのですが、ここに実は恐らく今回のスタジアムが目指すべきところがあり、ひいては秋田県が目指すべき事がまとまっているのではないかなと思います。この協議会自体も街づくりという名前が入っているように、ただ単なるスポーツを観るために・するための施設では無い目的があるべきだと考えております。そこに、スタジアムであり、実は県立体育館が築50年目に入っております。全国をみても私が知る限り他に無い。ですので立て替えなければならないと私は考えております。ですからスタジアム・アリーナというのが、どう秋田にあるべきか、どう街づくりに、どう秋田の街の発展にどう貢献できるか？これが、貢献できると判断できないのであれば作るべきでは無いと思いますし、貢献できる可能性があるのであれば前向きに検討するべきだと考えております。

また、このスポーツ庁の資料の中の事例集の中の17ページ・18ページの事例集1-1にデンバーの事例があります。ここはMLBのスタジアム、またNFLのスタジアム、NBA・NHLのアリーナが半径1kmの中にある。こういう事例が世界にはある。あえてここで国がスポーツ庁さんが1-1に掲載しているのだと私は思います。日本の中にはこのような事例が無いからです。運動公園というのはあります。運動公園内にスタジアムであれ体育館が同居している例は全国多数あると思います。だがそれはあくまで8ページにある目的に沿ったものであるというよりは、どちらかという競技をする人にとって適した施設であり、スタジアム・ア

アリーナ改革指針の定義に適した施設は非常に少ない。そして、こういったデンバーのようにそれぞれの施設が近くにある施設は全国にも事例がないのでは無いかと私は思っております。その中で今回ブラウブリッツ秋田がスタジアムという、Jリーグの中で整備をしなくてはJ2に上がれないという制約がある中で、整備するべきかという議論がある中で、スタジアム単体でみるのではなく、今後のアリーナという考え方も含めて、どう秋田県の街づくり・街の発展というものに貢献できるのかと、という風に考えております。もう一つ、こちらの「スタジアム整備の在り方検討委員会報告書」の中に書かれています「10年後の街づくりを見据えて考えていくべき」とありますが、私はもう少し長いスパンで考えるべきだと思っております。20年後30年後を見据えて施設を整備していくべきと考えております。このスポーツモールAKITAの企画提案書にも記載されておりますが、できるのが早くても5年後になります。10年後という事は存在は5年。ただ施設は本来20年・30年使われるべきもの。それが最低の耐用年数であると考えますので、そういった長いスパンのなかで、こういった施設が、場所も含めてあるべきかと考えていけたらと、秋田にとって有益な施設ができるのでは無いかと考えております。

山下委員

私は資料をご紹介したいと思います。シンガポールの「タンピネスハブ」をご紹介したいと思います。建設前から何度も通っている。スタジアムは今年の夏に出来上がりました。スタジアムとモールと公共施設が一緒になった施設なのですが、タンピネス地区は25.8万人の地区なのですが、サッカースタジアム、公共サービス（区役所）、飲食店街、ショッピング（地域の商店）、ファーストフード店、イベントができる広場、屋台街、職業安定所、公共サービスセンター、テニスコート、ホッケーコートなど。サッカーだけでなくいろんなスポーツができる施設になっている。スーパーマーケットも入っている。子供向けの施設、ボウリング、ヨガ、保育園、バレエ教室、旅行代理店、美容院、塾、子供達に通ってくる施設が入っている。勉強しに行こうという方も来る。ボルダリング、バスケットボール、コンサートができる、体育館があって卓球やバドミントンもできる、高齢者向けの介護施設、図書館、ジョギングのコースがあり、市民が気軽に運動できる、カラオケ、プール、老若男女が利用できる。図書館で読みながらサッカーを見れるような場所になっている。街の機能がとても多く入っている。こういうのが日本にも出来れば良いなと思っております。

桂田委員長

タンピネスの事例にはスタジアムにあれば良い機能がほぼ入っていますね。

山下委員

ここは人工芝なのですが、スタジアムという呼び方ではなく、タウンスクエアという呼び方をしている。ピッチも日々解放されているので太極拳をしている。

桂田委員長

人口も秋田と近い規模ですからね。

山下委員

秋田の人口に近いタンピネスがこういうものを作っているという事をお伝えしたかった。

小畑委員

委員長がおっしゃった通り、後援会はサポーターの立場に立って考えますと、とにかくブラウブリッツが活躍する事が第一だと思います。この企画に書かれている構想には付け足し意見は全く無いのですが、水野委員・新出委員いらっしゃいますが、私が思うのは、ブラウブリッツのファンになってもらうには、やはり触れさせる場面がなければならぬと思います。動員数、あるいは理屈抜きに応援する人以外、高齢者や子供にいかにもそこに集められるかという、先ほど山下委員にご紹介頂いたような、民間の力による人を集められる力があるスタジアムが一番良いと思います。触れさせる選択肢が多い方が良いと思います。興味が無い方、あるいは別の目的であっても必ずそのスポーツに何処かで触れられる様にするのモールというのが理想であって、ファンがより多い方が一番エネルギーの醸成になると思います。先ほど山下委員が共有してくれた様な誰でも立ち寄れる様な広がりが見せれる、多くの方々が集いやすい、別の目的でも行く様な施設が良いと思います。

桂田委員長

試合のある時だけ行く様な施設じゃ無いスタジアムであって欲しいと思います。地域のシンボルとしても存在するスタジアムであって欲しいなと思います。

新出委員

感想含めて3つほど意見を述べます。一つは飯坂課長から説明のあった検討委員会の提言ですが、18ページに具体的に書かれていますが、すごく良いなと理想だなと思います。例えば試合のない日の可動が高いとか、秋田ならではのオリジナリティ溢れるスタジアムとか、スポーツの産業化とか、文句の無い正しい事だと思うのですが、これを具体的に実現するのは難しいと思っている。ただ、スポーツモールAKITAの構想14ページにも書かれているコンコースを利用したランニング・ウォーキングコース、フィットネスなどの具体的利活用方法が出てきているので、皆さんのアイデアを出し盛り込んで行けば良いのではないかなと思うのが一つ。また二つ目にはこういった構想を考える視点として、スポーツを楽しむ文化を作るという考え方もあって良いのではないかなと思う。私の知人がラグビーの本場のニュージーランドでラグビーの試合をみると本当に楽しいんだよというのです。日本の秩父宮で観ると、ニュージーランドで観るとでは全然違う。なんで楽しいのか？競技のレベルが高いからか？それもあるが、スタジアムの雰囲気が良いんだと。観てるお客さんの雰囲気も良い。そこに行くと一緒になって楽しめる。それは多分、ラグビーの先進国ニュージーランド・オーストラリアはラグビーを楽しむ文化が根付いている。一つの視点として、スポーツを楽しむ器だけじゃなく、文化を作っていくというのも考えた方が良い。3つ目に競技スポーツと生涯スポーツについて。スタジアムでスポーツを観て楽しむだけでなく、自分でスポーツをして体を動かして健康になったり。逆に観るのは好きではないが体を動かすのが好きなんだという人がスポーツを見る機会になる。そういった視点も入れれば良いのではないかなと思いました。

桂田委員長

確かにスポーツを”する”と”観る”の融合とか、文化の醸成という事も重要な要素であると思います。

小林委員

皆さんのお話を伺ってまして、スポーツ庁が提案されていたキーワード「マインドチェンジ」これには2つの側面があると思います。一つは、政策立案と政策決定に関わる方々において、スタジアム・アリーナというものが、従来のものとは違うものであると。地域の核に据えられる街づくりそのものと非常にオーバーラップするものであるというマインドチェンジが必要だと思います。二つ目は、市民の方々のマインド。新聞等においても批判の意見は出ている。当然、その様な意見があつてしかるべきだとは思いますが、しかしながらそういう意見の方々が、実際のスタジアム・アリーナをどう捉えているか？恐らく我々がここで共有している知見とか情報を持たずに、スポーツ振興に対して非常に一元的な単調な目線で捉えている可能性があります。そこをどうマインドチェンジしていくか？この案件を進めていく時には非常に大きなポイントだと思います。もう一つは、山下委員から共有のあったタンピネスの事例。こう言った情報は我々にとって非常に有益な情報であります。私の経験からすると二つの種類があり、一つは壮大すぎて「あれは無理だよ」という反応、もう一つはそれを本気で目指してこれをやろうぜ！という姿勢。実は後者が圧倒的に少ないんです。となった時に壮大すぎると思う人達に対してどういうアプローチをするか？タンピネスはいろんな地域のステークホルダーが関わる施設、そう言った地域のステークホルダーのコンセンサスを合意形成して、現実的なものとして市民に実感を持たせられる事が出来る。もしくは、スケールダウンして、秋田の実情にあった、一般の人々が現実的だなと思う様なところで妥協点を測る。そんなところがこの事案に関して必要なと思います。

桂田委員長

スタジアム・アリーナは全国で構想がありますが、100%賛成のスタジアム・アリーナはありません。だいたい協議会が開かれているところでも賛成60%反対40%が多いですね。反対の皆様にご理解を得られるか、どう折り合いをつけられるか？も必要な要素だと思います。

島田委員

自分のバックグラウンドをまずはお話しします。プロスポーツに関しては、ノーザンハピネッツとブラウブリッツ秋田と両方のチームドクターをしております、うちの教室員がホームゲームは全て出ております。特にノーザンハピネッツに関しましては、選手のドーピングまた様々な怪我のデータまで全てソフトに取り込んでいます。ここまでのメディカルサポートチームは現在Bリーグでは秋田ノーザンハピネッツがトップだと思います。これを今ブラウブリッツにも適用しようとして来週岩瀬社長と話し合います。秋田県が最も優れているのは東京名古屋大阪と違い、1県1大学でございます。ですから、秋田県は全て整形科関係は秋田大学になります。部下が沢山おまして、メディカル資源は相当厚い。他の県のスポーツドクターの方々に関しては大学に所属してその時だけ行く。私どもは選手の練習から全てを管理できる環境にある。このことに関しては、numberにも掲載されました。この点については秋田県はプロスポーツを支えるメディカル資源については国内トップレベルにあります。これはすぐに使えると思います。次のバックボーンについて、私は秋田県スポーツ医学研究会という意思の集まりの会長でございまして、そこには整形外科・内科・小児科・産婦人科の専門家が全て揃っている。その研究会が盛んです。そこには日本体育協会・秋田県体育協会と密接に関係しております、そのコラボレーションの中で、様々な医学的情報の共有、小中高校生のメディカルチェック、日本で最初に行ったのが、甲子園出場チームに選任

の整形外科医を甲子園に帯同させた。これが今、整形外科学会が主導しまして、全国の大学に義務付けられた。そういうバックグラウンド、秋田県ならではの体育協会・医学研究会との密接な関係がある。これは地方ならではの特色であります。もう一つ、健康寿命について。佐竹知事が健康寿命日本一を目指そうと頑張っています。残念ながら秋田県の男性につきましては全国39位と低い、ところが女性は全国3位と高い。女性に関してははじめから健康寿命が高い。それには色々な要因がある。健康寿命増進のキーポイントは2つ。1つは運動既視感、足腰が弱る、それによって動けなくなる、それが最も大きな問題でございます。だいたい自分で立ち上がる事ができない方というのは5年以内に60%亡くなる。癌より怖い。それが現代の運動疾患になります。その予防・増進をどうすれば良いのか？私は公益財団法人運動器の健康・日本協会、これは社会運動の団体の理事をしております。色々な提言・施策が盛り込まれております。今日お話を伺って、非常に力強く感じたのは、スポーツモールを作るにあたって、健康寿命増進のための運動、これをスポーツモールと組み合わせた取り組みは残念ながら日本にはありません。スキャンジナビアにはあります。そうなってきますと、一つの大きな特徴。市民県民に納得してもらうための一つの材料になる。健康寿命増進、皆さんの生命の直接プラスになりますという事を申し上げる事が出来る大きな要因になります。これをもしスポーツモールの中に健康寿命増進の施策が取り込めると非常に大きなモデルケースになり、PRにもなりますし、秋田県ならではの仕様になる。健康寿命増進につきましては、私ども秋田大学というのは、非常に多くの市民公開講座を行っております。これはテレビ新聞を通じても宣伝しています。厚生労働省の運動器増進の為の取り組みは、秋田県が先進県であるという認識を持っております。この流れをそのままここに使う事が出来る。一つの資源です。最後に、障害者スポーツでございます。ご存知の様にイギリスのストック・マンデビル病院という病院がございまして世界最大の脊髄損傷の病院でございます。そこで始まったのがパラリンピックです。いまのパラリンピックの形にしたのが日本です、東京パラリンピックが本当のパラリンピックです。これを主宰し実行したのが大分県「太陽の家 中村病院」の中村太郎先生です。この先生たちが主催し頑張った日本パラプレジア医学会です。今名前は変わり、日本脊髄障害学会といいます。私は理事長をしており、パラスポーツの取り纏めをしております。私自身がパラリンピックのメディカルチェック委員をしております。このパラスポーツというものを取り入れるということは絶対に必要です。障害者に対する支援というのを考えていくと、必ず高齢者に行き着きます。その為のコンセプトの作り方というのは、私どもの日本脊髄障害学会の中に専門家が勢いあつていまして、その方々の意見を取り入れていけるといいます。今、申しました4つの観点で秋田県は優位性を持っているので、これらを是非、スポーツモールに直結させていきたいと思っております。

桂田委員長

大学の医学の知見、1県1大学というのは知見が蓄積されているという事ですね。

島田委員

これは東京名古屋大阪のスポーツドクターよりもはるかに専門家が揃っております。ですから、ノーザンハピネッツの選手がどんな怪我をしようが、どんな病気にかかろうが、すぐ治療し、すぐ復帰させます。そういう体制にあります。これは国内にはそれほどございません。我々の体制はすぐに活用できます。我々秋田大学が持っている強みをいかに世に知らしめてアピールするかだと思ふ。地方に行くと暗い話題だと言われるが、そうではない。秋田県はすごくいいところがある。それをどうコマーシャルするかが大事。最後に一つ、私、ノー

ザンハピネッツと関わることになってから、毎年必ずアメリカにプロスポーツを観に行っています。第2回目の協議会の時もニューオリンズに行きます。何がすごいのか？小畑委員も仰ったように熱気をどう作るのか？そのためにはキーになるものが何かを考える。熱気はどうやって作るのか？を真剣に我々が考える必要がある。（アメリカの）バスケットを観ても人口が少ないチームでも物凄い盛り上がり。もともと人種も違うかもしれませんが、秋田県人はお祭り男が多いですから、そういう持って行き方、PR、雰囲気づくりは非常に重要な資源になる。

桂田委員長

スポーツモールAKITAへの非常にコアなコンセプトになると思いました。

筒井委員

正直、皆様に比べ専門家でもないが、まずは、我々はまちづくり団体でもあり人づくり団体でもあります。きっかけ作りを関心の低い方にどうやって持っていただくかなと考えております。試合観戦等々に誘っても来ない周りのかとかに正直疑問に思うこともございますが、今、盛り上がっている地域、地域の特性を生かした成功例があれば良いなど。これは質問ですが、教えて頂きたいなど。スポーツを楽しむ文化、生み出すきっかけ、例えば松本山雅など、秋田にない例を知りたいと、それを秋田の方に知って頂きたいと思えます。

桂田委員長

スポーツコンテンツを知らない方に、老若男女が盛り上がっている成功事例を知りたいということですね。

木下委員

昨年J1で優勝した川崎フロンターレは2000年ぐらいの時は平均3,000人位しか観客がいなかった。川崎というのはヴェルディ川崎（現J2）が出て行ってしまうなどスポーツが根付かないという事も言われていたが、（フロンターレは）行政と地域と密着して、地域の方々とにかくに愛してもらおうとか、地域にいかにかに役立つかという事を考えクラブを運営していったところ、ファンが根付き今では平均22,000人を超える観客になった。私も今川崎に住んでいるが、本当に街中に愛されてるなというのを感じる。秋田にもそのポテンシャルはあると感じます。サッカーチームというより地域みんなの公共財という捉え方をすると、いろんなチームの使い方が出てきて、サッカーだけでなくみんなが集う場所、コミュニティとして2週に1回ホームスタジアムに行くと皆が集っている。地域の宝という風に思ってもらえると良いかと。チームはいかにかに地域に貢献できるかという事を考えてチーム運営してもらいたいと思えます。

日本経済研究所 小原さん

今、川崎フロンターレの事例がございましたが、一方で割と揃ってるなと（川崎は）。例えば人口100万人以上はいる、富士通ですとか大きな企業も揃ってるなとか、そう考えて諦めちゃうのではないかととも思う。すごいものをみて、うちじゃ無理だな。という風に。そういう観点からみて事例をあげると、ヴァンフォーレ甲府があります。川崎ほど目立つチームではないです。人口もホームタウンで19万くらいしかいない。エレベータークラブと言われJ1とJ2を行き来しているクラブだが、強みはJ2に落ちても集客がそれほど落ちないと割

と知られている。それはなぜかという地域全体で好きだから観に行く。J1だからJ2だからという事ではないと、メインのスポンサーもJ2に落ちても応援し続けます、というところがあります。ヴァンフォーレが面白いのはメディア戦略をうまく行っていて、もともといまの会長がメディア出身だったということもあり、地方メディアをうまく使って常にメディアに出続ける。これをやり続けた結果、あまり関心の無い方にも擦り込まれた。例えば地元のタクシーの運転手さんに聞いたらヴァンフォーレは知っている、試合も観ますか？と聞くと土日は掻き入れどきだから試合は観ないと、テレビでもあまり観ない。ではヴァンフォーレはあまり関係ないですねと聞くと、無いと困ります、ヴァンフォーレの試合は楽しみにしています、でもサッカーは興味も無いし観にも行きません。こういう方々が以外に支えているのでは無いかと思う。観にも行かない、サッカーもしない、興味も無いが無くちゃ困ります、という人を作れるか？というのが意外に重要なのでは無いか？という気がします。それがこのクラブがすごく話題になること無い、でも地元で強く求められているのかな、という気がします。こういった事を足掛かりにチーム作りを目指していくというのも考えとしてはあるかなと思います。

桂田委員長

とても勉強になります。

渡邊委員

何人かおっしゃってましたが、コスト先行みたいな話題が費用対効果みたいな話が先行してしまっていて、それが、スポーツ庁の資料にもありますが、こういう附帯が、賑わいが起きてくるんだという情報が県民の皆様には足りていないというのがつくづく良く分かった。J3優勝したのに上がれなかった、ブラウブリッツさんの（J2昇格の）話が先行になってしまって、それにそこまでお金が必要なのか？という議論がされるのは残念なのかなと思っ
ていまして。秋田県の課題解決につながる施設だということをもっと皆さんに訴えていかないと、なかなか理解してもらおうのが難しいのかなと思います。そういう面ではスポーツ庁さんの資料は非常にワクワクするような中身じゃないかなと思っています。ですので、もつとこの会を通じて多くの方に情報発信して、単なるグラウンド・体育館じゃないという事を数多く、情報発信していかなければいけない。駄説かもしれないが、学校にも文化部と運動部があるように、縣市連携施文化設は数多くの芸能団体や中央からのステージ・講演なんかでこれから華やかになるかなという気がしていますが、運動部に関してもそれを核として賑わいが作れるんだよという事を打ち出せばなと思います。お金の部分、無い部分は無理なのかもしれないが一定の話を詰めながら、この予算でどういうものが出来るのか、秋田に無い物が秋田にこれから出来るんだというのをここで議論できればなと思います。

桂田委員長

確かに情報発信の仕方が大切な気がします。他の全国の会をみてもスポーツチームさんが自分たちのコンテンツに自信があり、それとともに地域活性化に思いが強い方がオーナーとか社長さんが多く、割とご自身の持っているコンテンツを使った波及という事も当然地域に良いことをしているんだという思いをお持ちの部分が強すぎて、逆にPRとか実は冷静な方とのコミュニケーションが取れていなかったりというのが多い。シンポジウムを開催して情報発信している例もありますが、本日もYouTubeで生中継していますが、このように発信していく事も大事だと思います。

齋藤委員

私は行政の立場で出席しているので、非常に話しづらい部分もあるのですが、皆さんの意見を聞いて、すごく確かに街づくりという観点で前向きに議論する場だと思って来ているので非常に良いご意見を聞けたと思っております。内容的には県の報告書・スポーツモールAKITAというのは街づくりというのは非常に理解は出来るし共感できるのですが、先程新出委員も仰ったと思うのですが、理念はOKなんですけど、実現させるためにはどうするのか？というのがやはり私の立場であるとそこにその話をしないとこの会にきた意味が無いと敢えて言わせて頂かなければいけないのかなと思っております。感想が何点かあるのですが、その前に確認したいのですが、この協議会のまとめた「スポーツモールAKITAの街づくり構想」というのは結果的に3回の議論はどういう場で使われてどこに出されていくのかというのを確認したいなと思います。

事務局外山

この企画提案書は県の検討委員会でもともと提出する予定であったが、いろいろな事情があり、ブラウブリッツ秋田で提出しました。実際は検討委員会で練られた提言をブラッシュアップする会にしよう、実現可能なものにしていく為に今後県が設置される次のステップである策定委員会に提出して実現に向けて進めていければと考えております。

齋藤委員

それを踏まえて、行政の立場からすると14ページ・15ページに例えば用地の確保の役割分担であるとか、事業スケジュールがありますので、これが協議会としての提案だと思うが、ここがかなりこれからシビアな議論になっていく、かなりの課題かなと。それと水野委員も仰っていたのですが、この会に来た方皆さん街づくりという観点というのは共有できていると思うので、そうすると長いスパンでまちの形を変えることになるのか？それとも今の街を活かせるのか、という長いスパンで考える事になるので、非常にやはりスタジアム整備だけじゃなくて、場所の選定も含めれば、街の形も含めて全ての相対のコストとかメリットも考えなければならぬのかなと。それから非常に良い意見が聞けたのが、やはり器だけじゃなくて、スポーツを楽しむ文化を作るという事で、この町に暮らしていくための楽しめる選択肢を増やしていくという観点は皆さんで前向きに考えて行きたいなと思います。もう一点は情報発信は大事だなと。国の資料の8ページにも記載ありますが、役割分担とありますが、行政も地方都市であればいろんな手立てをしなければならないが、チームの方も公共的な効果を自ら説明するというのはやはり共同のもとで情報発信、それから街に対する効果とか、どこにどういう波及があるのかとか、そういうところをしっかりとやっていく、官民連携のところを色濃くやっていかなければならないと思います。今日委員の皆様からもいろんな意見はあるけれど、もっと周知すべきでは無いか、もっと知ってもらうべきじゃ無いか、立場が変わってもいろんな発信をしなければいけないのだなと感じました。

桂田委員長

齋藤課長の後ろには秋田市民が控えておられるので、そこは街づくりを推進するという観点で長いスパンでかつ行政様としてのコメントも欲しいと思っております。確かに13ページ・14ページ・15ページのこれから協議会で報告書の中で整備候補地・機能・利用用途・スキーム・スケジュールについて今後論題として議論しますが、そのところで長いスパンという話もいただきましたし、当然冷静なご意見も頂かなければいけないと思います。齋藤

委員からもスポーツの文化も街づくりに必要な大切なコンテンツだというご意見をいただきましたと思います。

飯坂委員

いろんなご意見をいただきまして、あり方検討委員会を経てこのスポーツモールAKITAの構想協議会という事で、やはり皆様からもご意見いただきましたけれども、やはりいかに多くの人に理解して納得していただくかと。その事が一番大事な事で、その為には行政だけではなく、民間からもこういう場からもより広く幅広く情報発信していく事が必要であると思う。街づくりという観点からの構想、これをいかに多くの方々に理解をしていただくかという事が本当に大事になると思います。今日、皆様からの意見を聞いていて正にその通りだなと思います。検討委員会の提言があり、この協議会、そしてまた新たな場がありますがそういった場をどんどん踏んでいき、最終的に秋田にとってどういったものが必要なのか、またどういったものが良いのか、今日の場は有意義、皆様から良い意見をいただいたと思っておりますので、残り2回も情報発信できるような議論をしていただくのが有難いなおもいます。

桂田委員長

県は次のステップがさらにあり、それも踏まえた今のステージにいる。という事でコメントをいただきました。

津々木さん

本日は本当にありがとうございました。委員の皆様から出たご意見はその通りだと思います。各協議会みてますが、基本的には総論OK、各論どうする？というところでかなり難しいところであったり、かなりシビアに議論しております。構想を秋田県でも議論されて、ブラウブリッツさんノーザンハピネッツさんからも構想は沢山色々出てくるのだが、コストから考えてはダメののだがコストにぶち当たるというところがございませう。そしてより一層シビアになる。そこからは逃れられないとは思っているので、国としても苦しみながら出しているというのもあるので、共にいいものを作っていければと思います。

小原さん

まさに津々木さんが仰ったように、総論でこれでいきたい！と思ってもコストで止まっちゃうというのがあります。それをいくつも見て来て思うのは、まず一つは、施設なんですけれども皆さんお分かりかと思いますが、絵を先に描くのではなく、やはりコンセプト・運営から考えると箱になるんだろうなという事。どうしても収支計算をしていくとコストにぶち当たると。そのコストは官民どちらが負担するのか？官で負担するとなると市民への説明が必ず伴う。スタジアム・アリーナが出来れば、そこをホームとして活躍するチームがある。そのチームが地元にあることの効果がどういったものなのか？ということのをきっちり説明しなければいけないと思う。チームという事になると、いろんなステークホルダーがいると思います。そのステークホルダーそれぞれが活用戦略を考えないといけない。特に自治体さん。せっかくホームにチームがあるのであれば、こういってはなんですけど、使い倒すくらいの勢いで活用する。恐らくそれがチームにとっても良い事になると思います。それが相互作用を起こし、なくてはならないものになる。そうするとよりスタジアム・アリーナの効果も上がっ

てくると思います。この協議会は官民きっちりお考えでチームも揃っている協議会ですので議論し合えば良いかと思ひます。

桂田委員長

予定の19時半を回ってしまいました、今回予定していた日本総研様とIBM様の事例共有は本日は割愛させて頂き、次回の目次は間に合えば事前に委員の方々に共有出来れば良いかと思ひます。本日の議事はこれで終了とし、事務局に戻します。

事務局外山

本日は長い時間大変お疲れ様でした。誠にありがとうございました。次回は3月6日（火）秋田駅直結秋田拠点センターアルヴェ4階洋室Cにて開催致します。お手元の出欠票にてご連絡下さいませ。これにて第1回協議会を終了致します。ありがとうございました。